

第1回技術検討会の主な意見について

(近年の降雨傾向や将来の気候変動を踏まえた目標設定について)

➤ 流域治水について

- 河川整備計画と流域治水の関係を整理してもらいたい。
- 流域治水の定量化のための技術開発等も進めるべき。
- 園部川など特にダムのない流域では、流域治水の可能性を検討すべき。

➤ 計画の見直しについて

- 計画は20～30年のスパンで見直し、気候変動の状況や需要の変化に対応した既存施設の改造なども検討していくべき。
- 基本方針の見直しの際には、平成25年洪水の温暖化想定や三川のピークが重なる場合などについても検討すべき。

第1回技術検討会の主な意見について

(更なる治水安全度向上に必要な事業メニューについて)

➤ 事業の進め方について

- 日吉ダムの暫定操作の解消は重要で、桂川全体の上下流バランスを見ながら段階的に進めるべき。
- 桂川と大戸川ダムの事業進捗を時間軸上で対比させてはどうか。

➤ 大戸川ダムについて

- 計算条件や各地点の流量、ダムの操作、三支川のピークなど、詳細なデータを示してほしい。
- 大戸川ダムにはゲートを設け、様々な操作に対応できるようにするのが望ましいのではないか。

➤ その他の留意事項等

- 宇治川は沿川開発が進んでいることから、堤防強化と維持管理が重要。
- 河道掘削は維持管理による後年度負担にも配慮が必要。
- 大戸川は土砂流出が多い河川のため、土砂流出を減らす流域対策も必要。